



令和3年度(2021年度)学校教育目標

自ら学び、心豊かに、たくましく未来を切り拓く生徒の育成



校訓【自主・友愛・健康】

玉名市立天水中学校だより 第12号

「家族で見つめる防災」について考えることのできた教育講演会【16日】



第2回目の授業参観や学年懇談会に合わせて学校運営協議会主催で行いました。講師は学校運営協議会委員、野球部コーチ、消防士でもある開大地さんです。

柔道で鍛えられた心と体

——県中体連大会選手推戴式で話したこと

「柔術を習い始めてから、あれだけ弱かった体が丈夫になり、短気だった性格も我慢強くなった。柔術が心と体の両方を鍛えてくれたことは間違いない。」

これは、韋駄天金栗四三さんの恩師でもあり柔道の創始者でもある加納治五郎さんの言葉です。これに通じる言葉が玉名市武道館には掲示されていました。

「鍛えよう、心と体、柔道で」と。

「はじめ」「まで」「わざあり」「いっぽん」という日本語は国際共通語です。柔道のルールだからです。

柔道はオリンピックの競技種目のひとつです。JOC(日本オリンピック委員会)の会長は、現在の山都町(旧矢部町)出身の山下泰裕さんであることを知っていることでしょう。山下さんについては「熊本的心」の「人生の金メダル」という題材を通して学んでいるはずです。

◇本校ホームページも随時更新しています。[天水中学校](#)で[検索](#)▶

「心・技・体」を鍛えるには——

一県中体連大会等を観戦して考えたこと

17日は県中体連大会ソフトテニス会場と日本通信陸上競技大会熊本県大会会場で応援をしました。18日は柔道競技会場です。これらの観戦を通して次のようなことを考えました。

「心と体」を鍛えるのは、なにも柔道に限ったことではありません。よく「心・技・体」をバランスよく鍛えることが大切だと言われます。「技術・技能」や「体力」はそれぞれの種目に応じたものがあるかと思います。しかし、「心」はいずれの種目においても通じるものがあるように思います。

対戦方式が個人戦であるとしても、選手一人を支えるコーチ、監督、家族、栄養士、メンタルトレーナー、試合を運営するスタッフ、応援してくれる多くの人々がいます。そうした方々への「感謝の心を忘れずに戦い抜きます」と、いずれのアスリートの口からも述べられています。決して一人で試合に臨んでいるわけではないことを自覚している心の表れでしょう。

これから始まる夏休みに「心・技・体」を鍛えるとするならば、何によってでしょうか。もちろん、それは一つに限る必要はないでしょう。9月の中体連陸上競技大会、10月の中体連駅伝競走大会かもしれません。あるいは、受験勉強、または習い事という人もいるでしょう。さらに読書もありではないかと思います。「本を読むことは、自分の考え方を育て、鍛えることです。」

夏休みは、さまざまな体験を通して自然に親しみ、本を読み、考える絶好のチャンスです。病気やけがをすることなく、生徒のみなさんが自らの「心・技・体」を鍛え、有意義な夏休みにしてくれることを願っています。健闘を祈ります。